

<オリエンテーション>

A. テーマ：キリスト教思想研究入門——宗教哲学、アジアのキリスト教思想

B. 目的

この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生、あるいはキリスト教研究の基礎の習得をめざす大学院生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。

C. 内容

今年度前期は、「キリスト教と宗教哲学」という研究テーマについて、主要な問題や思想家を取り上げることによって説明が行われる。主要な問題としては、伝統的な理性と啓示、悪と神義論、予定と自由意志、形而上学と神などを挙げるができるが、主に近代以降の問題状況が中心になる。シュライアマハー、トレルチ、ホワイトヘッド、ティリッヒ、ブーバー、波多野精一、西谷啓治、リクールらを取り上げる予定である。

後期は、「アジアのキリスト教思想」という研究テーマについて、多様な文脈を整理しつつ、検討が行われる。日本では、植村正久、海老名弾正、内村鑑三、賀川豊彦など、韓国では、土着化神学、民衆の神学、中国・台湾では、宋泉盛、Pan-Chu Lai、インドでは、Aloysius Pierisなどの思想を紹介し、アジアのキリスト教思想研究の可能性を探りたい。

D. 確認事項

受講者には、前期と後期に、一回ずつの研究発表が求められる（キリスト教神学学部生には原則的に発表が求められる。ほかの者はレポートに代えることも可能）。成績評価は、この研究発表によって総合的に行う。

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（木2、金3）を利用するか、メール（Sadamichi.Ashina@gmail.com）で行うこと。

E. 授業スケジュール

前期：キリスト教思想と宗教哲学

オリエンテーション——宗教哲学とその基本問題 4/10

1. 宗教哲学の歴史と伝統 4/17
2. 理性と啓示 4/24
3. 悪と神義論 5/1
4. 予定と自由意志 5/8
5. 形而上学と神 5/15
6. シュライアマハー 5/22
7. トレルチ 5/29
8. ティリッヒ 6/5
9. ブーバー 6/12
10. 波多野精一 6/19
11. リクール 6/26
12. 研究発表1 7/3

- 1 3. 研究発表2 7/10
- 1 4. 研究発表3 7/17
- 1 5. 予備日 7/24

後期：アジアのキリスト教思想

オリエンテーション 10/2

<宗教哲学とその基本問題>

1. 宗教研究における宗教哲学

神学と哲学、そして宗教哲学→広義と狭義の宗教哲学

狭義の宗教哲学は近代的知を前提とする。

カント、シュライアマハー

広義と狭義の宗教学と宗教哲学

規範概念

本質概念

経験概念

↓

諸概念の相互連関あるいは循環性：トレルチの本質概念

批判、発展、理想

2. 宗教哲学の多様性

宗教についての哲学一般

特定の思想史の中における宗教哲学

3. 宗教研究基礎論としての宗教哲学

科学哲学との比較において

宗教の存在を前提（所与）としてその可能根拠を解明する。

宗教研究の方法論的な諸問題を解明する。

4. 宗教哲学の基本問題：個別研究の前提

宗教の概念規定：宗教とは何か

宗教批判と宗教の存在意義：なぜ・なおも宗教か

宗教の複数性・多様性：どの宗教か

5. シュライアマハー、ティリッヒ、波多野精一、ヒック

<参考文献>

1. 芦名定道『ティリッヒと現代宗教論』北樹出版、1994年。
2. 日本基督教学会北海道支部編『「キリスト教学」再考』2009年。
芦名定道「キリスト教学の理念とその諸問題」
3. 神代真砂実・川島堅二・西原廉太・深井智朗・森本あんり
『神学とキリスト教学 その今日的な可能性を問う』キリスト新聞社、2009年。